

平成30年度生野区の取組み 振り返りについて (こどもの未来部会：抜粋分)

令和元年度 生野区区政会議
第1回こどもの未来部会



令和元年5月30日(木)



目 次

・平成30年度の主な取組	3
・平成30年度の主な具体的取組	
(1) 子育てが楽しくなるまちづくり	4
(2) 次世代の学校づくり(学校配置の見直し)	8
(3-1) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現①)	12
(3-2) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現②)	14
(3-3) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現③)	16
(3-4) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現④)	18
(4-1) 次世代の学校づくり(学校・教育コミュニティ支援①)	20
(4-2) 次世代の学校づくり(学校・教育コミュニティ支援②)	22
(5) 「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進	24
(6) まちの教育力を上げる	26
・目標の達成状況	28
・目標の達成状況を踏まえた評価結果の総括	29

平成30年度 主な取組
こどもの未来部会関連

安心してこどもを産み育てることができる環境づくり
子育てが楽しくなるまちづくり

未来を生き抜く力の育成
次世代の学校づくり（学校配置の見直し）
（「生野の教育」の実現）
（学校・教育コミュニティ支援）

未来を生き抜く力の育成
まちの教育力を上げる

「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進

(1) 子育てが楽しくなるまちづくり

◆取組実績

〈子育て応援イベント いくのっ子広場〉

- ・ 7月28日（土）台風のため中止
 - ・ 11月 8日（木）10時～14時 生野区役所
 - ・ 3月24日（日）13時～15時 生野区役所
- 参加者計 554名



「いくのっ子広場」第5回フェスティバル

〈子育てに関する効果的な情報提供〉

- ・ 子ども・子育てプラザの子育て情報サイト
“いくのでde育～の”を活用 アクセス数：9,191件
- ・ 区長による「いくみんな子育て通信」（毎月発行）



いくみんな子育て通信

こんにちは、生野区長です！



平成30年5月
第6号



山口照美

《ごあいさつ》新緑が目まぶしい季節になりましたね。子連れでのお出かけも、楽しめる季節ですね。それにしても、衣替えて気がつく子どもの成長の早さ！去年の服が着られなくなり、悩ましいこのごろです。毎月第3土曜日には、東部環境事業センターでリユースのために、ベビー服・子ども服・マタニティウェアの展示提供もやっています。1日1回の来場で、1名につき2点まで。お問い合わせは TEL:06-6751-5311です！

バックナンバー
はこちらです



〈生きるチカラを育む絵本プロジェクト〉

- ・ 3か月児健診での絵本の読み聞かせを実施、9月より1歳6か月児健診でも実施
- ・ 「ワクワクがいっぱい!!絵本PARK inいくの」
9月22日（土）10時～15時 生野区役所で開催 参加者 673名



【30年度業績目標】

- ・子育て応援イベントに参加した養育者について、イベントの内容が楽しかったなど肯定的に感じた割合

目標：80%以上 ⇒ 実績：94%

- ・生野区子育て情報サイト“いくのでde育～の”のアクセス数

目標：年間 6,000件以上 ⇒ 実績：9,191件

目標達成



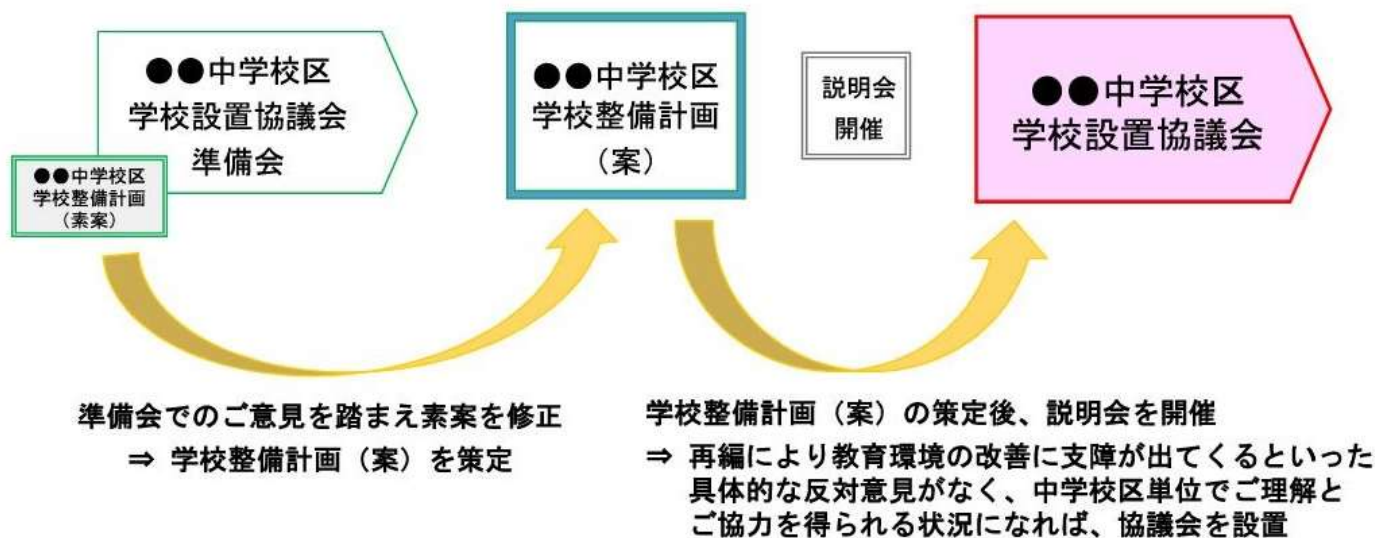
絵本イベント参加者アンケートより

- ・初めて来ましたが安心して遊ばせることができ、来年もぜひ参加したい。
- ・こどもたちはダンボール迷路やパズルに夢中でした。
- ・親子で楽しめました。私の住んでいる市でもあればいいな。
- ・大満足です。こどもたちにも良い経験になりました。

(2) 次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

生野区西部地域学校再編整備計画の推進について

◆学校再編の進め方



◆取組実績

●生野中学校区

- ・「生野中学校区 学校整備計画（案）」平成30年9月策定
- ・「生野中学校区 学校設置協議会」平成30年11月設置

●田島中学校区

- ・「田島中学校区 学校整備計画（案）」平成30年9月策定
- ・「田島中学校区 学校整備計画(案)」説明会 平成30年9月22・28日開催

●大池中学校区

- ・「御幸森小学校・中川小学校学校設置協議会」平成31年3月設置

●桃谷中学校区

- ・桃谷中学校 平成31年4月開校





【30年度業績目標】

- ・ 学校設置協議会の設置

目標：4 中学校区 ⇒ 実績：3 中学校区

目標未達成

◆要因分析と課題

- ・再編のメリットを感じられるような学校の魅力化とともに、保護者や地域の不安を払しょくしていく必要がある。

◆今年度の方向性

- ・引き続き、学校設置協議会設置に向けて、保護者、地域住民に丁寧な説明と意見交換を重ね、合意形成に向けた取組を進めていく。

(3-1) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現①)

◆取組実績

●学び支援事業

- ・模擬検定等の外部試験 16小学校にて実施





【30年度業績目標】

- ・事業実施後のアンケートにおいて、学習意欲を問う設問について肯定的な回答をする児童の割合

目標：70%以上 ⇒ 実績：67%

目標未達成

◆要因分析と課題

- ・より学習意欲を向上させる取組みが必要。

◆今年度の方向性

- ・経年で変化をみるため2学年で模擬検定を受けることができるように枠を拡大して事業を実施する。

(3-2) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現②)

◆取組実績

●生きるチカラを育む課外授業

※こどもの貧困対策関連の取組

民間事業者等による悩み相談と課外授業を通して、**基礎学力の向上**と**自己肯定感の醸成**をはかり、「**自ら学ぶ力**」の定着をめざす。

対象：大池中学校 1～3年生

会場：大池中学校

実施曜日：毎週月曜日・木曜日

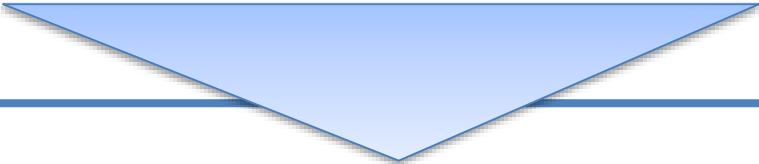
実施時間：① 18:30～19:40

② 19:45～20:55

※時間帯の①と②はどちらかを選択

受講者数：34名（平成31年2月末時点）





【30年度業績目標】

- ・参加者に対し事業実施前と後にアンケートを行い、家庭学習を「全くしない」と答える者

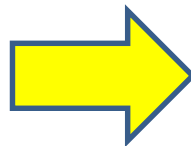
目標：「全くしない」と答える者を半減 ⇒
実績：2名を0名に

目標達成

◆今年度の方向性

- ・実施校を4校に拡大。

H30 1校
大池中



R元 4校
大池中・東生野中
田島中・新生野中

(3-3) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現③)

◆取組実績

●生きるチカラまなびサポート事業 ※こどもの貧困対策関連の取組

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する「生きるチカラまなびサポーター」の登録制度を構築し、学校の要請に応じて講師を派遣する。

- ・登録講師 14名 27講座
- ・小中学校での授業、教職向け研修 15回
- ・保護者、教職員向けシンポジウム、研修会 2回
- ・運営アドバイザー会議 3回



【赤ちゃんともふれあう授業】



【保護者、教職員向けシンポジウム】

【30年度業績目標】

- ・事業終了時のアンケートにて、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について否定的な回答をした受講者の割合

目標：8.0%未満 ⇒ 実績：3.4%

目標達成



受講者の意見

〔小学生〕（赤ちゃんとのふれあいを通して）一人ひとり個性あって、一人ひとり大切な命をもっているんだなあと思いました。

〔中学生〕将来のことについて、こんなに深く考えたことがなかった。自分の将来について深く考えなおすことができた。 ..etc

◆今年度の方向性

- ・登録講師の確保 ⇒ アドバイザーや学校と講師情報の共有を図り、人材確保に努める。

(3-4) 次世代の学校づくり(「生野の教育」の実現④)

◆取組実績

●民間事業者等を活用した課外授業「いくの塾」

中学校を会場として民間事業者等による課外学習を行い、学習習慣の定着、基礎学力の向上をめざす。

対象：区内在住の市立中学校に在籍の１～３年生

会場、曜日、時間：

- ・生野中学校 毎週土曜日（18:30～20:40）
- ・巽中学校 毎週水・金曜日
（※①18:45～19:45 ②19:55～20:55）
- ・東生野中学校 毎週火・水曜日
（※①18:30～19:30 ②19:40～20:40）

※時間帯の①と②はどちらかを選択

受講者数：42名（平成31年2月末時点）





【30年度業績目標】

- ・「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」という設問について、「そのままにしておく」と答える生徒の割合

目標：半減 ⇒ 実績：減少せず（2名のまま）

目標未達成

◆要因分析と課題

- ・割合としては小さい（受講者全体の7%）が、「そのままにしておく」と答えた生徒が減少していない。

◆今年度の方向性

- ・生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を身につけられるよう、受講日や周知方法を工夫しながら、取組みを継続していく。

(4-1) 次世代の学校づくり(学校・教育コミュニティ支援①)

◆取組実績

●小・中学校交流かけはし事業

児童生徒が中学校生活を楽しく過ごすためにスムーズな移行ができるよう、区が支援を行い、各中学校区における小中連携の取組をさらに充実させ、進学先の中学校の生徒や同じ中学校へ進学する他校の児童との交流促進を図る。

- ・小中学校の交流（部活動・授業体験等）
9 中学校区 8 校で実施
- ・モデル校区の取組（年間を通した交流）
1 中学校区 5 回
- ・小学校同士の交流 2 回



【小学校同士の交流】



【部活動体験】



【モデル校区(英語授業)】



【30年度業績目標】

- ・異なる年齢や学校の児童や生徒と交流できてよかったと感じた参加者の割合

目標:80%以上 ⇒ 実績:93%

目標達成



参加の児童・生徒より

- ・部活動を見てみたかったから楽しみにしていました！
- ・事前に中学校の様子を知れてよかった！

(4-2) 次世代の学校づくり(学校・教育コミュニティ支援②)

◆取組実績

●学校支援ボランティア人材バンク

- ・学校支援ボランティアの募集：2回
- ・基礎研修の実施：2回
- ・ステップアップ研修の実施：1回
- ・学校支援ボランティア登録：年2回
- ・区内公立小・中学校への登録者の人材情報の提供：毎月1回実施





【30年度業績目標】

- ・ 学校で活動する学校支援ボランティア数

目標:年間のべ17人以上 ⇒ 実績:11人

目標未達成

◆ 要因分析と課題

ボランティアの学校での活動機会を増やすことが必要。

◆ 今年度の方向性

学校とボランティアのマッチングを図るため、学校との意見交換の機会をより一層作っていく。

(5)「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進

◆取組実績

●分権型教育行政の効果的な推進

区長を教育委員会事務局における区担当教育次長として位置付け、分権型教育行政を進めることにより、区内の教育行政を推進する。

- ・区担当教育次長（区長）による学校施策への評価
- ・教育行政連絡会 小学校、中学校 各2回
- ・教育保育連絡会 2回
- ・各学校が実施する、特色ある教育活動の取組みについて、広報紙やHP等を活用した情報発信（通年）



【30年度業績目標】

- ・学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる割合

目標:小・中学校長 30% ⇒ 実績:96%

小・中学校の学校協議会委員 30% ⇒ 実績:83%

- ・学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる
「保護者・区民等の参画のための会議」委員の割合

目標:30%⇒ 実績:17%

目標未達成

◆要因分析と課題

- ・学校、地域の実情に応じた、特色ある教育活動の取組に関する情報が、区民に届いていない

◆今年度の方向性

- ・小中学校のニーズ把握等を行い、実情に応じた教育活動を支援
- ・発信内容の精査を行う等、より効果的な周知方策を検討

(6) まちの教育力を上げる

◆取組実績

●生涯学習の推進

- ・区生涯学習ルームフェスティバル：1回
- ・生涯学習ルーム：19校下（100講座）
- ・生涯学習推進員連絡会の開催：11回



【30年度業績目標】

- ・事業の参加者へアンケートを実施し、「区の生涯学習事業で学んだ内容を、地域行事等に活かせる機会がある」という問いに対し、「ある」と答えた割合

目標：60%以上 ⇒ 実績：60.2%

目標達成



生涯学習ルーム参加者アンケートより

- ・若い人に参加していただきたい。
- ・時には、ボランティアで施設に踊りに行くことがあります。
- ・とても良い講座なので多くの人に知ってもらいたい。

平成30年度 具体的取組の目標達成一覧 こどもの未来部会関連

具体的な取組	目標達成状況
子育てが楽しくなるまちづくり	達成
次世代の学校づくり(学校配置の見直し)	未達成
次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現①）	未達成
次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現②）	達成
次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現③）	達成
次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現④）	未達成
次世代の学校づくり（学校・教育コミュニティ支援①）	達成
次世代の学校づくり（学校・教育コミュニティ支援②）	未達成
「ニア・イズ・ベター」に基づく分権型教育行政の効果的な推進	未達成
まちの教育力を上げる	達成

目標の達成状況を踏まえた評価結果の総括

こどもの未来部会関連

様々な子育て支援の取組について参加者からは好評を得ていることから、さらに多くの方が参加できるように引き続き効果的な情報発信に取り組んでいく。そのうえで、区民が安心してこどもを生み育てることができる環境や相談支援体制の整備を進め、より子育てしやすいまちづくりを進めていく。

次世代の学校づくり（生野の教育）の取組について、一定の成果はあるものの、学習意欲の向上や、特色ある学校づくりの情報発信に引き続き取り組んでいく。

次世代の学校づくり（学校配置の見直し）について、魅力ある新たな学校の姿や地域の活性化につながる学校跡地を核としたまちづくりを提案しつつ、こどもたちの教育環境の改善を最優先に、保護者・地域住民に丁寧な説明と意見交換を重ね、合意形成に向けた取組を進めていく。

